

校種・教科等	高等学校・家庭	受審番号		氏名	
--------	---------	------	--	----	--

『家庭科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1-1教室
 (3) 学年・学級 第1学年1組(40名) 使用教科書〇未来へつなぐ家庭総合365(教育図書)

(4) 単 元 名 B編 第3章 住生活と住環境

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

・中学校において、住居の機能と安全な住まい方について、課題をもって、住居の基本的な機能について理解し、家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫することについて、学習している。

【単元のねらい】

・住生活の科学と文化について、住まいと人との関わりを踏まえながら、各ライフステージの住生活の特徴について理解し、生涯を見通した住生活の計画・管理ができるようにする。また、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解できるようにするとともに、日本の住文化の継承・創造について関心をもち、平面計画やインテリア計画などの実習を通して、住生活の自立に必要な知識と技能を身に付けることができるようにする。さらに、住生活に関わる情報を適切に判断し、生涯を通して安全や環境に配慮した住生活を主体的に営むことができるようにするとともに、日本と世界の住文化に関心をもち、伝統文化に蓄積された知恵や経験を現代に生かすことができるようにすることをねらいとしている。

【生徒の状況】

・事前アンケートの結果より、地震などの自然災害に対する住まいの防災対策などについて、家族と話し合ったことのある生徒は70%であり、多くの生徒が関心をもっている。しかし、一方では、地域の防災訓練・防災まちづくり活動に参加したことのある生徒は20%であった。

・グループ活動では、それぞれ意見を伝え合うことができるが、一斉授業の場では、積極的に発言する生徒が固定化している。

(6) 指導計画(全10時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (1時間)	1 どのような家に住みたい? ①住まいって何だ? ・人と住まいとのかかわりや、住まいの機能について理解する。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・技能 思考・判断・表現 態度
第二次 (2時間) 本時 1/2	2 安全に住もう ①安全・安心に暮らそう (本時:教科書p.194~p.195) ・地震などの災害に備えたり、家庭内事故の要因を理解したりするなど、安全な住居についての基礎知識を身に付ける。 ・安全で快適な住生活のための対策を具体的に考え、工夫する。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・理解 思考・判断・表現 態度
第三次 (4時間)	3 快適に住もう ①つながって暮らそう! ②快適に暮らそう ・家族のライフステージや状況に合わせた、適切な住まいについて理解する。 ・住居の平面図を読み取ることができるようになる。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・理解 思考・判断・表現 態度
第四次 (3時間)	4 住まいの課題と未来の暮らし ①持続可能な住まいへ ②これからどう暮らしていこう ・私たちの暮らしが地域とつながっていることを知り、まちづくりに参加する重要性を理解する。 ・日本の住宅事情や課題を理解し、持続可能な住まいの工夫について考える。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・理解 思考・判断・表現 態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高等学校・家庭	受審番号		氏名	
--------	---------	------	--	----	--

『家庭科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1-1教室
 (3) 学年・学級 第1学年1組(40名) 使用教科書〇未来へつなぐ家庭総合365(教育図書)

(4) 単 元 名 B編 第3章 住生活と住環境

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

・中学校において、住居の機能と安全な住まい方について、課題をもって、住居の基本的な機能について理解し、家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫することについて、学習している。

【単元のねらい】

・住生活の科学と文化について、住まいと人との関わりを踏まえながら、各ライフステージの住生活の特徴について理解し、生涯を見通した住生活の計画・管理ができるようにする。また、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解できるようにするとともに、日本の住文化の継承・創造について関心をもち、平面計画やインテリア計画などの実習を通して、住生活の自立に必要な知識と技能を身に付けることができるようにする。さらに、住生活に関わる情報を適切に判断し、生涯を通して安全や環境に配慮した住生活を主体的に営むことができるようにするとともに、日本と世界の住文化に関心をもち、伝統文化に蓄積された知恵や経験を現代に生かすことができるようにすることをねらいとしている。

【生徒の状況】

・事前アンケートの結果より、地震などの自然災害に対する住まいの防災対策などについて、家族と話し合ったことのある生徒は70%であり、多くの生徒が関心をもっている。しかし、一方では、地域の防災訓練・防災まちづくり活動に参加したことのある生徒は20%であった。

・グループ活動では、それぞれ意見を伝え合うことができるが、一斉授業の場では、積極的に発言する生徒が固定化している。

(6) 指導計画(全10時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (1時間)	1 どのような家に住みたい? ①住まいって何だ? ・人と住まいとのかかわりや、住まいの機能について理解する。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・技能 思考・判断・表現 態度
第二次 (2時間)	2 安全に住もう ①安全・安心に暮らそう ・地震などの災害に備えたり、家庭内事故の要因を理解したりするなど、安全な住居についての基礎知識を身に付ける。 ・安全で快適な住生活のための対策を具体的に考え、工夫する。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・理解 思考・判断・表現 態度
第三次 (2時間) 本時 1/2	3 快適に住もう ①つながって暮らそう! (本時:教科書 p.198~p.199) ・家族のライフステージや状況に合わせた、適切な住まいについて理解する。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・理解 思考・判断・表現 態度
(2時間)	②快適に暮らそう ・住居の平面図を読み取ることができるようになる。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・理解 思考・判断・表現 態度
第四次 (3時間)	4 住まいの課題と未来の暮らし ①持続可能な住まいへ ②これからどう暮らしていこう ・私たちの暮らしが地域とつながっていることを知り、まちづくりに参加する重要性を理解する。 ・日本の住宅事情や課題を理解し、持続可能な住まいの工夫について考える。	一斉 個別 ペア・グループ	知識・理解 思考・判断・表現 態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。